

鶴見半島及び大島地域の動物たち

鶴見半島は、杉・檜からなる人工林を中心とした鶴見町とタブなどの自然林からなる米水津村からなり、そのほぼ中央部が境となっています。この自然環境の違いが、ほ乳類の生息環境に大きな違いを示しています。鶴見半島の沖合に位置する大島の自然は、米水津村の自然に似通っています。しかし、鶴見半島の沖合に位置することから鶴見半島で観察される大型のほ乳類はほとんど観察されません。

シシ垣にみる自然との共生

下の写真は、鶴見半島のほぼ中央部に鶴見町と米水津村の境に沿ってイノシシの侵入を防ぐために人工的に築かれたシシ垣です。このシシ垣は、主に鶴見半島の米水津村に生息するイノシシが鶴見町側に侵入するのを防ぐために築かれたものです。鶴見半島の鶴見町側は、杉・檜の植林が古くから行われる一方、米水津村は、比較的自然林が古くから残されているためにイノシシやニホンシカが生息し、しばしば鶴見町へ侵入して林業をはじめ農作物に被害を与えてきたものと考えられます。その被害を最小限に押さえるためにシシ垣を築いたのです。イノシシは、四肢が短く写真のよ

うな石垣を築くだけで侵入できにくくなります。昔の人々は、このイノシシの生態を十分に理解し、猟銃などによる駆除という方法をとらずに石垣を築いてきたのです。これは林業・漁業に従事してきた鶴見町と漁業を主な産業にしてきた米水津村との生活スタイルの違いに応じた見事なイノシシ防除のあり方です。つまり比較的自然林が残されている米水津村にイノシシを囲い込むと同時に、自然の特徴を利用した昔の人々の知恵だといえます。



イノシシに掘られた跡



シシ垣

豊かな自然が残された九州最東端・鶴見半島

表は、鶴見半島で確認されたほ乳類の一覧表です。九州の最東端に位置する鶴見半島には、大分県で確認されるほ乳類の大部分の種類が生息しています。このことは、鶴見半島には、比較的豊かな自然が残されている証です。特に、種々のツバキの品種が植林され、見事に整備されている鶴御崎灯台の周辺は、キツネ、タヌキ、アナグマ等のほ乳類を観察できる場所になると思われます。一方、鶴見町の集落地周辺ではニホンザルやイノシシによる民家等への侵入や農作物への被害が出ています。今後は、この被害をどのように防いでいくかが大きな問題だと思われます。

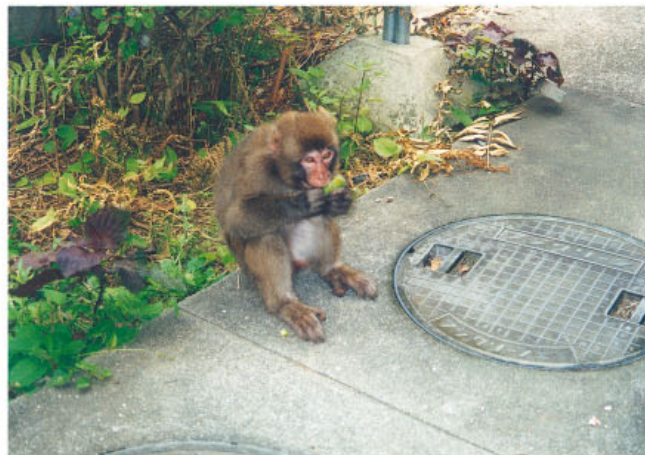
大島の自然

鶴見半島の沖合に位置する大島には、観察した時点では、ほ乳類としてはネズミ類しか生息していませんでした。しかし、近年鶴見半島から海を泳いで渡って

表 鶴見半島及び大島地域で確認されたほ乳類

目 名	科 名	和 名	確認方法
モグラ目	モ グ ラ 科	コウベモグラ	直接確認
サル 目	オナガザル科	ニ ホ ン ザ ル	聞き取り
ウサギ目	ウ サ ギ 科	ノ ウ サ ギ	直接確認
ネズミ目	リ ス 科	ム サ サ ビ	聞き取り
ネ コ 目	イ ヌ 科	キ ツ ネ	聞き取り
		タ ヌ キ	直接確認
	イ タ チ 科	テ	直接確認
		イ タ チ	直接確認
		ア ナ グ マ	直接確認
ウ シ 目	イ ノ シ シ 科	イ ノ シ シ	直接確認
	シ カ 科	ニ ホ ン シ カ	直接確認

きたイノシシが大島に渡り、繁殖をしている情報があります。この情報が確かであれば、今後大島の農作物への被害が心配されます。今後のイノシシ生息状況を注意深くみていく必要があります。



民家にてきたニホンザル



ニホンシカのふん



アナグマ